名詞修飾班第2回研究会
（2017 年 10 月 29 日　富山大学）

スィンディー語における名詞修飾の実際

東京外国語大学　萬宮健策

1. 言語の概略
2. スィンディー語の名詞（相当語）
3. 名詞修飾の実例
4. ウルドゥー語との比較におけるスィンディー語の特徴

1. 言語の紹介・概略

- 現代インド・アーリヤ諸語(New Indo-Aryan)の1つ。話者人口約3千万（9割はパキスタンに居住。その8割はムスリム（イスラーム教徒）、残りの1割はインドに居住するヒンドゥー教徒）
- アラビア文字（52 文字）で表記。インドではデーヴァナーガリー文字を併用
- 人称接尾辞の多用、多重使役形、開音節構造、入破音4つ

2. スィンディー語における名詞（相当語）と修飾語

以下に、スィンディー語で名詞相当語として機能する品詞を挙げる。同時に、それらを修飾することができる品詞群を挙げる。なお、スィンディー語では、たとえば、「武器輸出」や「事実確認」のような『名詞＋名詞』いう構造は文法上許されず、属格後置詞を用いて表現される（武器の輸出、事実の確認）。

2. 1. 名詞＜男性名詞と女性名詞＞

一般名詞で自然性を有するものはそれに従う。それ以外は全く恣意的に、語末の母音により男性名詞と女性名詞とに分類される [1]。語彙によっては、どちらにも分類されるものもある。また、格変化も語末の母音の変化で示される [2]。固有名詞（地名、人名）についても語末の母音に応じた格変化をする。

2. 2. 動詞不定詞

動詞不定詞は、例外なくその語末が-aṇu（自動詞と、一部の他動詞）、もしくは-iṇu（多くの他動詞と、全ての使役動詞）で終わり、動名詞として機能する。その際、語尾が-u で終わる男性名詞と同じ変化をする。

2. 3. 動詞分詞＜未完了分詞、完了分詞＞

未完了分詞は、その語尾が-ãdaṛu もしくは-ĩdaṛu、完了分詞はその語尾が-alu でそれぞれ終わり、動名詞、もしくは形容詞として機能する。動詞不定詞と同様に、-u で終わる男性名詞と同じ変化をする。

2. 4. 代名詞

---

[1]主格の場合、語尾が-ō, -u は男性名詞、-ī, -a は女性名詞に分類される（一部例外あり）。
[2]主格、後置格、呼格の3種。それ以外の格は、後置詞で示される。

指示代名詞には近称と遠称があり、対応する名詞の文法性に応じた変化がある。定冠詞の役割も有する。基数詞1は不定冠詞としての機能を有する。

3. スィンディー語における名詞修飾

本節では、具体例を提示しつつ、スィンディー語の名詞修飾の構造を考察する[3]。

3. 1. 形容詞＋名詞

(1) waḏō　gharu
大きい NOM.M.SG.　家 NOM.M.SG.（大きい家）

(2) hīu　waḏō　nīlō　gharu
この　大きい NOM.M.SG.　青い NOM.M.SG.　家 NOM.M.SG.
（この大きい青い家）

(3) hina　waḏē　nīlē　ghara
この　大きい OBL.M.SG.　青い OBL.M.SG.　家 OBL.M.SG.
meṇ　kō　na　āhē.
LOC.　誰 NOM.　NEG.　いる PRS.SG.（この大きい青い家には誰もいない）

(4) hīu　gharu　waḏō　āhē.
この　家 NOM.M.SG.　大きい NOM.M.SG.　コピュラ PRS.3.SG.（この家は大きい）

3. 2. 代名詞＋名詞

(5) mũhĩjo　puṭu
私 GEN.NOM.M.SG.　息子 NOM.M.SG.（私の息子）

(6) mũhĩjā　puṭa
私 GEN.NOM.M.PL.　息子 NOM.M.PL.（私の息子たち）

(7) hīu　kitābu　/　hikṛō　kitābu
この NOM.M.SG.　本 NOM.M.SG.　ある NOM.M.SG.　本 NOM.M.SG.
(7a) hīa　chōkirī　/　hikṛī　chōkirī
この NOM.F.SG.　少女 NOM.F.SG.　ある NOM.F.SG.　少女 NOM.F.SG.

(8) hīu　mũhĩjo　puṭu　āhē.
これ　私 GEN.NOM.M.SG.　息子 NOM.M.SG.　コピュラ PRS.SG.
（これは私の息子です。）

---

[3] 本稿で用いるグロスは、https://www.eva.mpg.de/lingua/pdf/Glossing-Rules.pdf に基づいている。それ以外では、PRON: Pronominal（人称代名詞）、PS: Pronominal Suffix（人称接尾辞）。

(9) asã̃jō　pākistāna　waňaṇa　jō
我々GEN.NOM.M.SG　パキスタン OBL.　行く INF.OBL.　GEN.NOM.M.SG.
irādō
意志 NOM.M.SG.　（我々がパキスタンへ行く意志）

3. 3. 名詞＋人称接尾辞（親族名称等に限定される）

(10) puṭu=mi　bi　hite　ĩdō.
息子 NOM.M.SG.=PS.1.SG.　も　ここ　来る FUT.3.M.SG.
（私の息子もここに来るだろう）

(11) puṭa=ni　sã̃　puchō.
息子 OBL.M.SG.=PS.3.PL.　ABL.　尋ねる IMP.PL.（彼らの息子に尋ねて下さい）

3. 4. 動詞分詞

3.4. 1. 未完了分詞

hal=aṇu -> hal=ãdō -> hal=ãdaṛu（動く）

(12) halãdaṛi　gāḍī
走る IPFV-PTCP.NOM.F.SG.　車 NOM.F.SG.（動いている車）

(13) hūa　gāḍī　halãdaṛi　āhē.
それ NOM.F.SG.車 NOM.F.SG.　走る IPFV-PTCP.NOM.F.SG.　コピュラ PRS.SG.
（この車は動いている）

(14) halãdaṛi　gāḍīa　nazdīka　na
走る IPFV-PTCP.OBL.F.SG.　車 OBL.F.SG.　近く ADV.　NEG.
acō
来る IMP.PL.（走っている車の近くに行かないでください）

3.4.2. 完了分詞

khul=aṇu -> khul=iyo -> khul=iyalu（開く）

(15) khuliyalu　daru
開く PRF-PTCP.NOM.M.SG.　ドア NOM.M.SG.（開いたドア）

(16) hīu　daru　khuliyalu　āhē.
この ドア NOM.M.SG.　開く PRF-PTCP.NOM.M.SG.　コピュラ PRS.SG.
（このドアは開いています。）

(17) una　khuliyala　dara　khã̄　b̄āhari
　あの 開く PRF-PTCP.OBL.M.SG.　ドア OBL.M.SG.　ABL.　外へ ADV.
waňō
　行く IMP.PL.（あの開いたドアから外へ出てください。）

(18) machī　pacāĩdalu　māṇhō
　魚 NOM.F.SG.　焼く IPFV-PTCP.M.SG.　男 NOM.M.SG.
(18a) machī　pacāiṇa　wārō　māṇhō
　魚 NOM.F.SG.　焼く INF.OBL.　PTCL.　男 NOM.M.SG.
（魚を焼く（焼いている）男）

(19) machīa　pacāiṇa　jī　būi
　魚 OBL.F.SG.　焼く INF.OBL.　GEN.NOM.F.SG.　におい NOM.F.SG.
(19a) machīa　pacāiṇa　khã̄　acaṇa　wārī
　魚 OBL.F.SG.　焼く INF.OBL.　ABL.　来る INF.OBL.　PTCP.F.SG.
　būi
　におい NOM.F.SG.　（魚を焼くにおい）

3. 5. 接辞 wārō

(20) sabzī　wārō
　野菜 F.SG.　人 M.SG.（八百屋）

(21) hitē　acaṇa　wārō
　ここ　来る INF.OBL.　人 M.SG.（ここに来る人（男性））

(22) ṭōkyō isṭēšana　acaṇa　wārī　gāḏī
　東京駅 OBL.　来る INF.OBL.　PTCP.F.SG.　列車 NOM.F.SG.
（東京駅に来る列車）

(23) hū　miṭṭhō　jēkō　huna　khādhō āhē
　その　お菓子 NOM.M.SG.　関代　彼 OBL.SG.　食べる PRS-PFV.M.SG.
（彼が食べたことがあるお菓子）
(23a) huna　jō　khādhalu　miṭṭhō
　彼 OBL.SG.　GEN.NOM.M.SG.　食べる PRF-PTCP.M.SG　お菓子 NOM.M.SG.

4.　現時点でわかっていること、これから確認しなければならないこと

名詞および名詞相当語を修飾することができるのは、代名詞、形容詞、動詞の各分詞および、関係詞で導かれる節である。それ以外に接辞 wārō を用いることにより、単文を修飾節として用いることができる（例文(22)(23)(23a)）。

一方で、接辞 wārō を用いる文と、動詞未完了分詞を用いる文との意味上の差異がどの程度ある

のかについては、今後の確認作業が必要である。

今回の報告では、スィンディー語の構造を出発点として例文を提示したため、日本語との対照が不十分である点は否めない。特に、寺村(1981)が提唱した「外の関係」のうち、「誰かが階段から降りてくる音がした」や、「これは女房の幽霊が、三年目になってようやくあらわれる話である」、「火事が広がった原因は空気が乾燥していたことです」に相当する文がスィンディー語でどのように表されるのか、という点が当面の課題である。

上記の例文は、スィンディー語の文法構造上、上述の接辞 wārō、もしくは未完了分詞を用いて表現できる可能性が残されているが、未検証であるので、ここでは例文を提示するのみに留めておく。

(24) kãhĩ	jō	hēṭhiyani	manzila	tarafa
誰か OBL.SG.	GEN.M.	下の ADJ.OBL.	階 OBL.F.SG.	方角 OBL.F.SG.
acaṇa	wārō	āwāzu	āyō āhē.	
来る INF.OBL.	PTCL.M.	音 NOM.M.SG.	来る PRS-PFV.M.SG.	
(24a) kãhĩ	jō	hēṭhiyani	manzila	tarafa
誰か OBL.SG.	GEN.M.	下の ADJ.OBL.	階 OBL.F.SG.	方角 OBL.F.SG.
ĩdaṛu		āwāzu	āyō āhē.	
来る PRS-PTCL.M.INF.OBL.		音 NOM.M.SG.	来る PRS-PFV.M.SG.	

（誰かが階段から降りてくる音がした）

参考文献

alānā, ǧulām alī. 1984. ***sindhī muallim.*** haidarābād (sindh): sindhī adabī bōrḍu. (Sindhi Self-taught)

Lakiari, Sayyad Qalandar Shah. (ed.) 2006. ***The Oxford elementary learner's English Sindhi dictionary.*** Karachi: Oxford University Press.

Lekhwani, Kanhaiyalal. 1987. ***An intensive course in Sindhi.*** Mysore (India): Central Institute of Indian Languages.

寺村秀夫, 1981.『日本語の文法（下）』, 日本語教育指導参考書5, 東京：国立国語研究所